



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社タジマ (A)

5

株式会社タジマ（以下タジマ）は、1961年の会社設立以来今日まで50年近くに渡り操業を続けている製造メーカーである。本ケースシリーズでは、タジマの歴史を5つのフェーズに分け、それぞれのフェーズでの出来事をB以下のケースに記述している。各フェーズでの詳細な施策はB以下の各ケース内に記述してあるが、まず本Aケースでは、2009年現在のタジマの状況を説明する。

10

組織

タジマの2008年度時点での組織図と各課の役割を付属資料1に示す。

15

タジマには、2008年時点で103名の社員がいて、そのうち工場で製品を製造する製造部が78名と、多くの社員が直接製造部門に所属している。タジマは受注生産がメインであり、その受注内容が歴史的に移り変わってきているため、組織も受注内容に応じて変更されてきた。特に製造部では、受注内容により業務自体が大きく変化していくため、さまざまな変化が生じている。また限られた数の社員で業務を行っているため、複数の役割をこなす社員も多い。

20

社員の平均勤続年数は全体で10.6年、男性11.6年、女性7.2年（2008年時点）となっている。社員の平均年齢は全体37.2歳、男性38.5歳、女性32.3歳（2008年時点）である。

タジマの現在の主力製品は、半導体製造装置のチャンバーなどに用いられる加工部品である。半導体業界の製品は、相場商品であり業績の波が激しいため、タジマの社員の労働量は安定しない。一つの施策として2008年時点で約20名の派遣社員が働いているが、長年勤続しているものも多く、彼らに技能が蓄積されている部分がある。しかし、派遣法の改正により製造業への派

25

本ケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科 M31 期生田島佳典、同博士課程 D19 期生山口 淳が、河野宏和教授の指導の下で作成した。本ケースはクラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 河野宏和・田島佳典・山口 淳（2010年5月作成）